

アートが地域を拓く



兵庫県立美術館 館長
豊 蓑

巻頭言

現代の都市間競争の時代を生き抜くには、文化やアートの力はこれまで以上に重要となつていきます。都市の文化的な魅力や懐の深さが人の賑わいを呼び、創造的な経済活動を生み出すのです。例えば、スペイン・ビルバオ市のビルバオ・グッゲンハイム美術館。この街はかつて造船で栄えた街ですが、1990年代には衰退し、当時の市長が文化を核にまちづくりを進める目的で97年にニューヨークのグッゲンハイム美術館の分館を建設しました。設計は世界的建築家フランク・ゲーリーさん。戦艦のような斬新なデザインは話題を呼んで一躍人気観光地となり、その後、周辺でホテルや商業施設の建設も進んで街が再生しました。また国内では、私がかつて館長を務めた金沢21世紀美術館。人が入らないと言われていた現代アートの分野の美術館ですが、感性が柔らかな「こども」に注目し、2004年の開館時に市内4万人の子供を招待し、後で両親も一緒に来てもらえるよう、「もう1回券」を渡すなど、工夫を凝らしました。建築家ユニットSANAAが設計した宇宙船のような建築や、レアンドロ・エルリツヒさんの「スイミングプール」などの人気作品もあり、通常は年間5万人ほどしか入らない地方公立美術館にあって、毎年百万人を超える入館者を数えています。これまでの伝統文化のイメージが濃かった金沢に現代の最先端のアートも加わり、都市イメージは飛躍的に向上しました。

2010年から館長を務めている兵庫県立美術館では、近隣に美術館や動物園が集積していることから、これらを結ぶ通りをミュージアムロードと名づけて、街の賑わいづくりに取り組んでいます。フロレンティン・ホフマンさんの「美かえる」やヤノベケンジさんの「サン・シスター」はじめ、道沿いに野外大型オブジェを設置したほか、阪神電鉄さんには最寄りの岩屋駅の駅名に丸かっこで「兵庫県立美術館前」と入れていただいたり、シマブンさんには「美かえるカラフルマルシェ」の開催を、神戸市さんには「灘総合芸術祭」を実施いただくなど、官民あげて多くの地域関係者にこのエリアを盛り上げていただいています。また、16年からは地元のパート関係者と協力して、美術館の南側の海でレガッタ大会を開催しています。今後も、当館はアートの力を活用して、兵庫という地域の魅力向上に一層貢献できるように、さまざまな手を打っていきます。現在、当館の設計者である世界的建築家・安藤忠雄さんのこれまでの仕事を概観できる展示施設を館の敷地内に増築中です。完成の暁には、国内のみならず海外からも多くの方に訪問いただけるでしょう。また当館は、近年欧米で相次いで企画展が開催されて評価が世界的に高まった「具体美術協会」の作品も多数所蔵しています。このような独自資源を内外に効果的にアピールして、館のブランディングを強化することも現在、検討中です。来年、香港にアジア最大の美術館「M+(エムプラス)」も建設され、ますます文化をめぐる都市間競争も激しくなります。常に時代と世界の動向を見据え、立ち止まることなく、次なる方策を練り出していきたくと考えています。